

会 議 録

会議名 (審議会等名)		野外体験教室運営協議会		
事務局 (担当課)		相模川自然の村野外体験教室 電話042-760-5445 (直通)		
開催日時		令和4年12月2日(金) 14時00分～16時00分		
開催場所		相模川自然の村野外体験教室 ミーティングルーム		
出席者	委員	11人(別紙のとおり)		
	その他	無		
	事務局	6人(石長所長、福井所長 他4人)		
公開の可否		<input checked="" type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 <input type="checkbox"/> 一部不可	傍聴者数	0人
公開不可・一部不可の場合は、その理由				
議題		1 開会 2 議題 (1) コロナ対策について ア 若あゆ、やませみのコロナ対策について (2) 令和4年度の利用状況等について ア 若あゆ、やませみの利用状況について イ 主催事業について ウ 施設修繕について (3) 令和5年度に向けて ア 学校利用等について (4) その他 3 閉会		

議 事 の 要 旨

主な内容は次のとおり。

2 議題

福井会長の進行により、議事が進められた。

(1) コロナ対策について

ア 若あゆ、やませみのコロナ対策について

資料1 (3ページから12ページ) により説明

(笹野委員) コロナとインフルエンザの対策の違いはなにか。

(事務局) インフルエンザの場合は、一般の病気と同じような形で対応している。
なお、学級閉鎖になった場合は別途相談をいただき対応している。

(笹野委員) 施設独自でというよりも、市の全体の方針に沿って対策を講じているのか。

(事務局) そのとおりである。教育委員会としての全体の方針や、国の方針を見ながらこの施設に沿ったものを作っている。

(大貫委員) コロナ対策で、夜も部屋の窓を開けているとあるが、冬の時期はだいぶ寒くなってきている。何か対策をしているのか。

(事務局) 部屋の窓は基本、隙間を15cm程開けて、それ以上は開かないようにロックされる状態で人等が入れないようになっている。雨天時や寒い時期に閉めるような場合は、学校の判断でお願いしている。

また、サーキュレータを換気扇の方に向けて常時稼働させ、感染対策を行っている。本来であれば部屋の扉を閉めて寝ていただくが、コロナ禍では換気を優先し、学校利用の場合は扉を閉めずに暖簾で中が見えないように対策し、利用してもらっている。なお、着替えの時は扉を閉めるようにしている。

(笹野委員) 情報交換をして情報を集めればやらなくていいこと、やらなくてはないことがわかってくる。ぜひ情報をたくさん集めてほしい。

(福井会長) 今まで行っていることが必ずしも有効とはいえないケースもある。変えるところは変えたほうがよいと思う。

(笹野委員) コロナ対策の費用で、通常よりかかった費用はプラスで予算が措置されているのか。

(事務局) 新しく対策をしているものについては、国庫から交付されている。施設運営の通常予算が削られているということはない。

(福田委員) 37.5度以上の発熱した生徒がいた場合、一緒にいた濃厚接触者の児童生徒の扱いはどのようになるのか。

(事務局) 37.5度以上の発熱者は待機部屋に待機させ、保護者に迎えに来ていただき帰宅させている。この段階では陽性か陰性かはわからないため、一

緒にいた児童生徒については健康観察に注意しながら活動をさせている。結果が出るのは退村後となってしまうため、わかってからは学校側での対応となる。

(福井会長) 退村後、コロナと判明した時は学校との情報共有はしているのか。

(事務局) 共有している。退村後に陽性と判明した場合、まず施設内の消毒を行う。施設の利用は終了しているので、その後保健所とのやりとりは学校側で行っている。

(福井会長) コロナ禍での対策で、体験活動に影響が出ていることはあるか。

(事務局) 緊急事態宣言下は、学校においても調理実習などはストップするので、若あゆでも作って食べる活動は減る。市の発出する文書で、学校で対策を講じて可能となった場合については、若あゆでも対策、距離をとって調理の活動をさせている。宣言下では減るが、今は活動を再開しているので減ったという印象は特にない。飛沫の恐れがある竹笛等は吹きながらの活動になるので、そういったものは減っている。

なお、やませみについては屋外で行う活動が多いので特に変わりはない。人気の活動としては野外炊事があるが、屋外の活動となるので変わりはない。屋内でやるような食や調理を伴うものについては、調理室が狭いということもあるかもしれないが敬遠される学校が多い。あきらかに活動数は減っている。

(笹野委員) 活動中のおしゃべりは、注意しているのか。

(事務局) 体験活動がメインの施設なので、子ども達が会話を通して学んでいくところはある。マスクをしているので、必要以上に大声を出さない等の対策を講じながら行っている。

(2) 令和4年度の利用状況等について

ア 若あゆ、やませみの利用状況について

資料2 (13ページ、14ページ) により説明

(意見等、特になし)

イ 主催事業について

資料3 (15ページから18ページ) により説明

(鈴木委員) 食農体験デー10月29日の応募者数27名に対して、参加者が48名とはどういうことか。

(事務局) 運動会などの学校行事と重なっていたため応募者数が少なかったが、10月22日に参加できなかった方々に電話連絡をし、29日でも参加できるという方々を募ったためである。

(瀬間委員) 食農体験デーや稲刈りで、保育対応は現在あるのか。

(事務局) 稲刈り、田植えで保育対応をしている。特に、稲刈りについては刃物を

使うので保育を行っている。今後に向けては、また検討していく。

(松石委員) 定員はコロナ禍で減らした数字か。将来的にコロナの問題がなくなれば、多くの方に参加してもらった方がよいと思うがどうか。

(事務局) スターフェスティバルについては、本来ドームの中に40名、1クラス規模で行っていた。それでは密になってしまうので20名に限定して実施している。

田植えについては、以前は1日で行っていた。1日で100名を募集人数として実施していたが、より多くの方々に参加していただきたいということで、1年間に田植え1回、稲刈り1回だったところを田植え2回、稲刈り2回の計4回にして、定員も各日を60名とした。田んぼの規模を考えると、120名程度までになる。

(松石委員) 応募希望の方は、それで救えているということによいか。

(事務局) 極力、多くの方が参加できるようにしたいと考えている。今後もコロナが落ち着いたら、人数や回数に限界はあるが、例えばスターフェスティバルは夏と冬しか行っていないが、もう少し天体で見える時期があれば、そこに設定することで極力応募者が残念な思いをしないよう対応は考えていきたい。

(福井会長) 食農体験デーで、1回目が応募者164名に対して参加者57名、2回目が応募者61名に対して参加者43名で、募集人数60名に達していないが、募集したが駄目だった方の繰り上げということはしているか。

(事務局) 欠席者がどうしても出てくるので、そういったところで繰り上げでの対応は行っている。1回目が多くて2回目が少なかったので、1回目の抽選で漏れた方に電話をかけて、こちらの日が空いているのでご都合どうですかといったフォローは行っている。

(福田委員) 天体観察を何回も行っているが、この前の月食のような時は事前にわかっているのだから、特別に予定を入れて実施できないのか。

(事務局) 学校利用は前年度末には決まるので柔軟な対応は困難である。当該日は1泊2日の学校が帰る日だったため対応ができなかったが、あのような月食の日はスケジュールで特定ができるので、そのような日は利用を空けておいてイベントを組むというのは可能と思われる。天候の関係もあり、なかなか難しいところはあると思うが、せっかく天文台もあるので今後検討していきたい。

なお、今回初めて博物館と若あゆでコラボして「宇宙&野外炊事イベント」を行った。博物館に依頼して、ボランティアの方を呼んで実際に天文台だけではなくて望遠鏡を使って、そこに一人一人付いて実施したが好評であった。また来年度以降も、こういった形でイベントを組んでいこうと考えている。

(佐藤委員) わざわざ事前にそういった方をお呼びする以外で、インターネットで「#

きぼうを見よう」を検索すると、人工衛星がいつ通るかスマホでわかる。これを子どもたちの活動に支障のないとき、例えば「キャンプファイアーの時にちょっと見よう」、「5分見よう」とか、ドームの中に入らなくても外で見えるし、窓からも覗けるし、みんなで同じ体験ができる。望遠鏡を使えば、もしかしたら人工衛星の羽根も見えるかもしれない。「今見えなくなったのは地球の影になったからだよ」と説明すれば学習につながるので、ぜひ活動の途中で行っていただけたらと思う。子ども達と同じ体験をすることは人生の中で大切に残るものである。

(事務局) 日程がわかるので、そのとき利用している学校には、こういうこともできるということで提案をしていきたい。

(福井会長) 学校では夜間できないことが若あゆでできれば、先生方も喜ぶのではないかと思う。マンパワーの問題、予算の関係もあると思うが、できるところからお願いしたい。

ウ 施設修繕について

資料4 (19ページから20ページ) により説明
(意見等、特になし)

(3) 令和5年度に向けて

ア 学校利用等について

資料5 (21ページから24ページ) により説明

(福井会長) 小学校は必須だと思うが、中学校は学校選択ということでよいか。

(事務局) 原則、小学校も絶対使わなくてはいけないということではないが、小学校は全部受けていただいている状況である。中学校については、平成30年度から選択制を取り入れ、1泊か2泊、若しくは利用無しかを学校が選択する。大規模校は280人が最大受入数となるが、今コロナ禍によって部屋の人数も定員10人のところを8人にしている関係で、大規模校にはかなり使いにくい状況がある。最初は大規模校5校が利用をしない状況であったが、コロナ禍では日帰り利用も認めるなど、学校の意向を尊重した柔軟な対応をしている。

なお、利用しない中学校が少し増えていることを懸念しており、利用しない中学校については、どのような理由で利用しないのか聞き取りをしており、利用していただけるように検討を進めているところである。

(福井会長) ゆったり利用できるようになったという点ではよかったと思う。プログラムを見ても小学生には良いが、中学生は2回目になる。中学生側のニーズにうまくマッチできるような形になれば、もっと利用されやすくなるのかなと思う。その辺がうまくできればと思う。

(佐藤委員) 私は小学生に話をすると、中学生に話をするとでは内容を変えてい

る。同じ話でも内容を少し変えて話をしている。小学生に話した内容を少し発展させて中学生に話している。そうすることで同じことでも中学生がこの活動に入って良かったなと思ってもらえるようにしている。

(事務局) 中学校の利用が減ってきているというのが実情である。その中で小学校と中学校が同じようなプログラムではあるが、成長した子どもたちの感じ方も違えば、活動協力者が工夫して行ってくれているケースもある。また、中学校の総合につなげてという考えにおいて防災教育の要望があるので、結び付けるような体験活動も検討していきたいと考えている。

(笹野委員) 若あゆを始めたころは中学校も来たが、最近ほとんど小学生である。中学生が興味を持つようなことをしないと駄目である。

(松石委員) 学校側が参加することを決める前に、体験教室の方から説明できる会議があるのか。

(事務局) 代表の校長や副校長が構成員になっている「野外体験教室学校利用検討委員会」があり、学校利用について説明する機会がある。年々利用が減ってきているのはコロナが理由かもしれないが、減ってきているという実情はあるので、学校に出向いたりしながら情報を集め、魅力ある若あゆを伝えた中で、今すぐは難しいかもしれないが2年、3年後には1校でもまた戻るというような形を探っている。

(佐藤委員) 若あゆの体験はすごく大切だと思う。

(事務局) 今後も引き続き、学校へのアピールをしっかりと行っていきたい。

(4) その他

(大神田委員) 保護者、子どもは野外体験教室に行くことを楽しみにしている。コロナ対策をしっかりと行っていることによって安心して利用できるのも、今後も対策をゆるめないでいただきたい。

(藤井委員) コロナ対策で色々と工夫をしながら、活動していただいて非常にありがたいと思っている。大規模校というのは人数が多いのでコロナ対策も難しいと思っている。子ども達の野外体験の場が少なくなっているのがとても残念である。今後も工夫しながら、ぜひお願いする。

(事務局) 次回は3月に開催する予定でいるので、よろしく願います。

野外体験教室運営協議会委員出欠席名簿

	氏 名	所 属 等	備 考	出欠席
1	福井 智紀	麻布大学	会長	出席
2	大神田由香里	もえぎ台小学校		出席
3	守屋 孝子	藤野中学校		出席
4	福田 豊	相模原市子ども会育成連絡協議会		出席
5	藤井 朱起	ボーイスカウト相模原第5団		出席
6	笹野 茂	下大島地区ふれあい農業組合		出席
7	佐藤 輝美	活動協力者		出席
8	大貫 君夫	大島観光協会		出席
9	松石 藤夫	活動協力者	副会長	出席
10	鈴木 洋子	公募委員		出席
11	瀬間 一美	公募委員		出席